



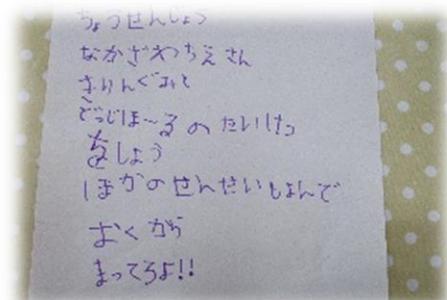
3月の園だより

令和5年3月1日
目黒区立菅刈保育園長

菅刈公園の梅の花が綺麗に咲き春が近くまできていることを感じさせてくれます。

先日、近隣の私立保育園4園の年長クラスの友達がドッジボール大会で来てくれました。3チームに分かれ、他の園の友達と同じチームになり総当たり戦で戦いました。初めての友達と同じチームになるので、自分たちで進められるか心配でしたが、元外野を決める時には「どうしたい」「じゃんけんする」等相談しながら決めていました。外野でボールが転がってくると勢いよく取りに行き、取ろうとした時に他の子がいるのを見つけ「どうぞ」と譲ってあげる姿、ボールの取り合いになっていると「けんかしないでやろうよ」と仲裁に入る姿、当たって悔しくて泣きたいのをグッとこらえている姿等、普段と違う新たな一面が見られました。勝ち負けの勝敗は付きましたが「楽しかった」という声が聞かれやり遂げた満足感を感じました。最後は皆で(総勢52名)自己紹介、緊張している子もいましたが、全員大きな声で名前を言う事ができました。そしてとても心に残った出来事がありました。それぞれの保育園の友達が帰る時、きりん組は部屋に入ろうとしていたのですが、帰ろうとする友達に駆け寄ってきて「きてくれてありがとう」「またドッジボールやろうね」と手を振る姿に、誰から言われたわけでもなく、自分たちで気が付いて感謝の気持ちを伝えている姿に相手を思いやる気持ちが育まれているという心の豊かさを実感しました。

また、以前から「先生たちともドッジボールをやりたい」と言われていて「挑戦状を持ってきたらやるよ」と答えていました。先日担任から自分たちで挑戦状を書いていると教えてもらいました。挑戦状の文面も自分たちで考えていて「園長先生にも名前があるよね」「なかざわちえっていうんだよ」「呼び捨てにするのは良くないからさんも書こうか」等相談しながら書いていたそうです。保育園は遊びを中心とした実践です。入園から卒園まで、何をとっても変わることのない基本です。字を教えたりしなくても、子どもたちは日々の実体験の中で必要なことを学び取ろうとする意欲や態度が身に付き、今の子どもの姿に繋がっています。「意欲的に遊べる子ども」「思いやりのある子ども」「感性豊かな子ども」が菅刈保育園の園目標です。菅刈保育園の子どもたちが夢中になって遊ぶ姿に4月からの成長した姿と重ね合わせ喜びを感じています。今後子どもたちにとって、私たち大人が出来ることは何なのかその大きな課題に向き合う覚悟を新たにしつつ今年度、保護者の方と共に子どもたちの成長を喜び、保育出来たことに感謝申し上げます。今月は子どもたちとのドッジボールを楽しみたいと思います。



《 3月の行事予定 》

身体計測 (0・1・2歳児クラス)

身体計測 (3・4・5歳児クラス)

避難訓練

卒園式

なかよし散歩 (3・4・5歳児クラス)

新クラスへの移動日 (午後)

【一年間の成長した姿】

菅刈保育園では自然豊かな環境の中、子どもたち一人ひとりが好きな遊びにじっくりと向かえるよう保育を工夫してきました。一年間で遊びを通して成長した姿を紹介します。

0歳児クラス（つぼみ組） 『一步新しい世界へ』

「ナイナイしてお庭に行こうか」と声をかけると、自分の使っていた遊具を棚にしまい出入り口に向かいます。「みんな来たかな」と保育士が振り向くと、まだ遊んでいる友達に（おいでおいで）と手招きして一緒に行こうよと誘っています。その姿に気づいた子は嬉しそうに出入り口に向かってきました。散歩先でも落ち葉を拾って、這い這いしている友達に持って行き、保育士の真似をしてパラパラとかけて笑い合っています。安心できる環境の中で一緒に楽しい経験を重ね、身近にいる大人だけでなく友達やまわりの世界へ関心が広がってきました。「一緒だね、楽しいね」と自分からもかかわろうとする姿が見られるようになってきています。

これからもそんな日々を積み重ねて、子どもたちの世界がもっともっと開かれていくように見守っていきたいと思っています。



1歳児クラス（すみれ組） 『お医者さんのつもり』

安心できる保育士と過ごす中で、好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が増えてきました。遊びのイメージが広がってきて身近な生活の再現をしながら、保育士と一緒に言葉や身振りでやりとりを楽しめるようになってきています。

人形を抱っこして保育士に「あしがいたいです」と来る子がいました。「絆創膏はりますね」とフェルトをまいてあげると「ありがとうございました」と帰っていきます。それを見ていた子が「おなかがいたいです」と保育士の所へやってきます。すると、さっき絆創膏を張ってもらった子が「どこがいたいですか」とチェーンリングを聴診器に見立ててお医者さんになりきっていたので「おなかいたいんだって」と保育士が仲立ちするとその子のお腹に聴診器を当てて診てもらっていました。保育士と一緒に楽しく遊ぶ経験をたくさんしてきて、友達への興味も出てきています。保育士が互いの思いを汲み取って仲立ちしながら、友達と関わる楽しさをたくさん経験できるようにしていきます。



2歳児クラス（ひまわり組） 『ごっこ遊びを十分に』

保育士が長椅子でお店のカウンターを簡単に作ると、子どもたちがパンに見立てたお手玉をトレイに並べ始め、「いらっしゃいませ」とお客さんを呼び込みます。お店の人はエプロンと三角巾を身につけて「どれがいいですか」とトングを持って聞きます。「甘いパンはどれですか」「3個ください」などと話をしながら、一つ一つお皿に盛り、「40円です」「はい携帯で払っていいですか」「ありがとうございました」などとやりとりを自分たちで楽しむようになってきました。友達とイメージを共有しながら、役になりきってごっこ遊びを楽しんでいます。少しずつですが、友達に言葉で自分の気持ちを伝えられるようになりました。この一年間で、友達への関心が広がりました。幼児クラスへの期待がとても高まっています。



3歳児クラス（いす組） 『気持ちを通じ合う喜び』

自分の気持ちを言葉にして伝えることが巧みとなり、今までは「かして」に対して「だめ」や「いや」といった簡単なやり取りだったものから、「いまつかってるから、おわったいいよ」や「いっしょにつかおう」など、友達と気持ちを通じ合う嬉しさを感じられる経験を重ねてきました。また、「それどうやってつくったの?」「こうしたらいいんじゃない?」「こっちもって」と協力してブロックで大きな作品を作り上げる中で、達成感や友達と一緒にだともますます楽しいということを感じられた一年だったと思います。

クラス内だけでなく、異年齢からもたくさんの刺激を受けました。お店屋さんごっこでは、店員とのやり取りや、お土産を選んだりする中で、“今度は自分たちも店員をやってみたい”という気持ちが生まれ、意欲に繋がっています。保育園ならではの刺激をたくさん受けて、大きく成長した子どもたちです。



4歳児クラス（うさぎ組） 『相手の気持ちに気づく』

この一年で楽しい遊びをたくさん見つけてきた子どもたちは、園庭に出るとすぐに鬼ごっこが始まり、友達と遊ぶ楽しさを存分に感じているようです。そして、色々な行事も経験してきました。先月のお店屋さんごっこでは、やりたいお店をみんなで話し合い、「どんなおもちゃを売ろうか」「食べ物はどうやって作ろうか」とアイデアを出し合い、楽しみながら準備を進めました。「レインボーキャンディーにしたいな」「ポケモンのおもちゃ作りたい」など、自分で考えて、イメージを形にしたり、お店屋さんになりきってやり取りする楽しさを味わいました。友達と関わる中で、思いがぶつかることもありますが、その中で、自分の思いを伝える力や相手の気持ちに気づきどうしたらよいか考える力が育ってきています。

これからも、様々な経験をする中で、自分の好きなことを大事にし、友達の良さも感じながら、共に大きくなってほしいと思います。



5歳児クラス（きりん組） 『みんなで協力して』

この一年間、日々の生活や遊びを通して、友達と笑ったり、泣いたり、時にはぶつかりあったりしながらたくさんの経験を重ね、心も体も大きく成長した子どもたちです。年長ならではの様々な行事にも取り組んできました。その中で友達と話し合ったり考えたりする経験を大切にしてきました。行事の取り組みの中では、イメージの違いから言い合いになることもありましたが、クラスで一つのことに向かってみんなで協力する楽しさをたくさん味わうことで、相手の意見を受け入れ友達も認められるようになってきました。大好きな仲間と共に心を一つにして取り組んだ経験は一人ひとりの自信になっていると思います。先日ドッジボール大会がありました。取り組みまでの過程の中で、「チーム分けはどうしようか」「どうしたら勝てるか作戦たてよう」など自分達で話しあい、相談して決めることを楽しんでいた子どもたち。友達の良い面をたくさん知っていて異なる意見を受け入れようとする姿に成長を感じました。友達と協力して工夫してやり遂げたり、困っている仲間の手をさしのべたりと大きな成長を感じています。

保育園生活での経験から育まれた自信を胸に一人ひとりが残りの園生活を全力で仲間と楽しんでもらいたいです。

